

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校の特色ある取り組みとして「幼小交流」をこれまで実施してきた。毎年、年間指導計画を見直し、どの学年も明確なねらいを持ち、有意義な活動を行うことができた。また、園児との関わりや異学年交流の取り組みのなかで、学校診断アンケートの結果からも児童の自尊感情が育ってきたことを窺うことができた。

道徳教育においては、年間指導計画とともに道徳点検表を作成した。毎月振り返りを行うことで重点的に取り組む項目が明確になり、計画的に進めることができた。今後、教科化に向けて引き続き道徳教育に対する理解を進め、準備を進める必要がある。

特別支援教育の取り組みでは、昨年度、長年の念願であった支援学級を設置することができた。インクルーシブ教育の理解を進めると同時に「ユニバーサルデザイン」を意識した学習・生活指導の工夫に全校を挙げて取り組んでいく必要がある。

学校生活において児童は学校診断アンケートの結果からも「学級のきまりを守る」ことができていると、児童・保護者ともに認識している。しかし、校内での児童の安全面を考えると、廊下、階段の右側歩行について今後徹底していく必要がある。児童が主体的に考え、学校全体で意識を高めていく安全指導の工夫に今後取り組んでいく必要である。

本校では学習場面で、教科を問わずペア・グループ・全体での様々な話し合いの場を設定することで、児童は友だちや聞き手に自分の考えを分かりやすく伝えるために、内容や順序、分かりやすい言葉を考えて、意欲的に伝えることができるようになってきた。しかし、個々の課題の見つけ方や指導法に課題が残る。

健康面においては、これまで「早寝早起き」、「規則正しい生活を目指す」といった児童の生活習慣の改善と向上を進めてきた。長年継続して実施した結果、児童が意欲的に取り組もうとする意識をはぐくむことにつながった。今後は、体力面の向上と連携し、健康な体づくりに重点をおき、食育の推進に取り組んでいく必要がある。

また、過年の「全国体力・運動能力調査」の結果から、本校の児童の課題として「筋力」「跳躍力」の向上が挙げられる。これまでは「握力」に対する取り組みを中心に行ってきたが今後も継続して取り組みを進めることと合わせ、新たな課題として「跳躍力」の向上を目指し、「走・跳の運動」の活動を計画的に取り入れ、実施していく必要がある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○平成32年度末の校内調査「いじめについてのアンケート」において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を97%以上にする。

○平成32年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を97%以上にする。

○平成32年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を0件にする。

○平成32年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を0件にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成32年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、110以上にする。(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと)
- 平成32年度の小学校学力経年調査における正答率5.4割以下の児童を2%以下にする。
- 平成32年度の小学校学力経年調査における正答率7.5割以上の児童を80%以上にする。
- 平成32年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 平成32年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である立ち幅跳びの平均の記録を男女共に平成28年度より2ポイント向上させる。

2 中期目標の達成に向けた年度目標 (全市共通目標を含む)

子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

全市共通目標(小・中学校)

- 平成29年度末の校内調査「いじめについてのアンケート」において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
平成28年度 94% → 平成29年度 95%
- 平成29年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を95%以上にする。
平成28年度 95% → 平成29年度 95%
- 平成29年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
平成28年度 0件 → 平成29年度 0件
- 平成29年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。
平成28年度 0.9%(2件) → 平成29年度 0.4%(1件)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標(小・中学校)

- 平成29年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。(標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと)
平成28年度 109 → 平成29年度 109以上
- 平成29年度の小学校学力経年調査における正答率5.4割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。
平成28年度 3年生、4年生、5年生、6年生・・・2.3%
↓
平成29年度 3年生、4年生、5年生、6年生・・・2.3%以下

○平成29年度の小学校学力経年調査における正答率7.5割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より増加させる

平成28年度 3年生、4年生、5年生、6年生・・・78.5%

↓

平成29年度 3年生、4年生、5年生、6年生・・・78.5%以上

○平成29年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。

平成28年度 76% → 平成29年度 77%以上

○平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である立ち幅跳びの平均の記録を、前年度より0.5ポイント向上させる。

平成28年度 男子 144.3ポイント→ 平成29年度 144.8ポイント以上

平成28年度 女子 136.9ポイント→ 平成29年度 137.4ポイント以上

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

廊下階段の歩行については、環境整備を図るとともに全教職員で共通理解し、様々な教育活動で取り組みを進めてきた結果、廊下・階段の正しい歩行の仕方については意識化を図ることができた。しかし、休み時間に運動場へ出る時や移動教室時では、十分定着することができているとはいえない。また、小学校学力経年調査でも「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目は目標を達成できなかった。児童が自主的に実践できるように指導方法や環境整備をさらに工夫し、次年度も継続して取り組みを進める。

道徳の時間の確保については、道徳教育全体計画別葉にそって計画的に進めることができた。また、情報モラル教育についても年間指導計画にそって進め保護者への啓発にもつながった。今後も計画的に取り組みを進め時間数を確保するとともに、来年度の道徳の教科化に向けて指導計画を精選し、指導法についての研修を進める。

特別支援については、特別支援を要する児童一人ひとりのニーズに応じた支援について全教職員が共通理解を図ることができる機会が増えた。特別支援学級でののびのびタイムを設けたことで異学年交流をする機会を設けることができた。特別支援担当教員、学級担任、関係職員、保護者等が密に連携し、一人ひとりのニーズに応じた細やかな支援を行うことができた。次年度も取り組みを継続して進める。

幼小交流では、年間計画にそって各学年交流を実施することができた。また、休み時間に児童が自主的に交流する「スマイルタイム」を設けたことで、思いやりの態度や自尊心を高めることができている。次年度も「スマイルタイム」含め、計画的に幼小交流の取り組みを進めるとともに内容や成果について次年度に生かす。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

主体的対話的に学ぶ児童の育成については学習課題の設定や学習の展開を工夫した結果、児童が対話や話し合いを通して自分の考えを深めることができた。次年度は、さらに「話し合いの視点にそった学び」が深まるよう継続して指導を進めていく。

校外活動の充実については、計画的に自然とふれあう活動を取り入れ実施できた。来年度も継続指導をする。

I C Tを活用した学びの教育実践については、ねらいに合わせて多様な「I C Tを活用した学び」を実践し、効果的な場面での積極的なI C T活用を図ってきた結果、児童はI C Tを活用した学びに意欲的に取り組んだとともに学習内容の理解につながることができた。

I C Tを活用した授業づくりや理科授業力向上については、計画通り研究授業を進め研究を深めてきた。研究・研修により指導力の向上につながった。

立ち幅跳び記録向上については。各学年、ガッツ週間や年間計画に走・跳の運動（遊び）の学習を位置づけ、跳躍力の向上を意識した運動（遊び）を多く取り入れた結果、概ね5月より1月の記録結果が上回った。

バランスのよい食事については、栄養教諭による栄養指導や一口メモの活用や給食委員会の発表、給食週間での呼びかけにより児童の食に対する意識は高まり、肯定的に回答した児童は9割を超え、バランスの良い食事について理解し心がけている児童が増えた。今後も継続して指導を進めるとともに日常の生活でも実践できるように取り組みを検討する。

(様式例 2)

大阪市立滝川小学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会 (学校園・家庭・地域) の実現】</p> <p>全市共通目標 (小・中学校)</p> <p>○平成 29 年度末の校内調査「いじめについてのアンケート」において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。</p> <p>平成 28 年度 94% → 平成 29 年度 95% → 100%</p> <p>○平成 29 年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる (どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を 95% 以上にする。</p> <p>平成 28 年度 95% → 平成 29 年度 95% → 90%</p> <p>○平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。</p> <p>平成 28 年度 0 件 → 平成 29 年度 0 件 → 0 件</p> <p>○平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p> <p>平成 28 年度 0.9% (2 件) → 平成 29 年度 0.4% (1 件) → 0.4% (1 件)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の充実】</p> <p>ろうか階段の正しい歩行の仕方を守るようにする。</p> <p>指標 ・全教職員で共通理解して指導する。</p> <p>(月目標に設定、児童朝会で全体指導、右側通行の掲示、養護教諭によるけがの防止についての指導)</p> <p>・強調週間を設け、チェックカードを活用してろうか階段の正しい歩行の仕方について意識化を図る。(9 月、1 月)</p> <p>→「廊下・階段を正しく歩行していますか。」について肯定的に回答する児童のアンケート結果は、80% (前回 83) 平均 81%</p>	B
<p>取組内容②【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>道徳の時間を確実に実施する。</p> <p>指標 ・「道徳教育全体計画別葉」を作成し、35 時間 (1 年生 34 時間) 実施する。</p> <p>・情報モラル教育を道徳の時間に位置づけて実施する。</p>	B
<p>取組内容③【施策 2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>特別支援を要する児童一人ひとりのニーズに応じた支援を関係教職員・保護者と連携して実施する。</p> <p>指標 ・特別支援教育校内委員会を設置し、特別支援を要する児童一人ひとりのニーズについて教職員が共通理解を図る。</p>	A

<p>・特別支援を要する児童がともに活動し、学び合う場を設ける。 (のびのびタイム、月1～2回)</p>		
<p>取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】 併設幼稚園の利点を生かし、幼児・児童の発達や学びの連続性をふまえた、幼小9年間の教育を推進する。</p>		
<p>指標 ・幼小9年間を見通した学習計画を構築し、学年ごとに、以下の取り組みを行う。</p>		A
1年	5・6月 遊び場へ行こう(藤田公園での交流) 2月 体験学習(幼保交流)	
2年	2月 滝川っ子まつり(さくら組との交流)	
3年	10月 うたう会	
4年	10月 うたう会	
5年	7月 ふれあいプール	
6年	2月 ガッツ交流	
<p>・幼小教員が相互参観を実施し、教育実践に生かす。</p>		
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>		
<p>① 廊下階段の正しい歩行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・右側通行の掲示 ・朝会指導や学級指導 ・養護教諭によるけが防止についての指導 ・月目標を設定(教室に掲示) ・廊下・階段正しく歩こう強調週間(チェックカードに自己評価) <p>上記のように、全教職員で共通理解して取り組んだ結果、廊下・階段の正しい歩行について意識化を図ることができた。しかし、正しい歩行の徹底までには至っていない。「右側を」「静かに」「歩く」習慣が身に付いたとは言えず、継続した指導の徹底が必要である。</p>		
<p>② 道徳の時間の確保</p> <p>道徳教育全体計画別葉にそって計画的に指導を進めることができた。また、学期末に振り返りを行い、実際にできたかどうかチェックをしたことにより、道徳の時間を確保できるように努めた。</p> <p>情報モラル教育については、年間指導計画にそって、各学年の発達段階に応じて進めることができた。学習参観時に全学年が実施したことにより、家庭への啓発につながった。</p>		
<p>③ 特別支援</p> <p>特別支援を要する児童一人一人のニーズに応じた支援について、職員会議や特別支援教育研修会などで全教職員が共通理解を図ることができた。</p> <p>特別支援学級では、特別支援担当教員、学級担任、関係職員、保護者等が密に連携し、一人一人のニーズに応じた細やかな支援を行うことができた。また、校外活動や行事等でも、どのような支援が必要か事前に話し合い、児童が安心して活動に取り組めるようにした。</p> <p>のびのびタイムでは、異学年交流をする機会を設け、在籍児童同士のつながりを深めることができた。</p>		

④ 幼小交流

年間計画にそって、園児と各学年との交流を実施することができた。また、併設幼稚園の利点を生かし、「スマイルタイム」では児童が自ら進んで参加し、休み時間に園児と仲良く交流が図られた。

このような幼小交流の取組の結果、児童は上級生としての思いやりの態度が育ち、責任感や自尊感情を高めることができています。教職員も、園児の発達の様子を身近で見たことで、小学校の学習や生活との関連について学ぶことができた。

今後の改善点

- ① 廊下を走る児童が多いので、全教職員が共通理解をして、継続して指導する必要がある。特に、休み時間に運動場へ出るときや移動教室へ行く時に、正しい歩行ができていない児童が多い。児童が正しい歩行を自ら実践できる態度を育成する必要がある。
 - ・視覚的に訴えるポスターやカラーコーンの設置
 - ・ガッツ週間に、「廊下階段を静かに右側通行」の項目を追加
 - ・道徳の時間に決まりやルールを守る態度を養う指導日を設定
- ② 道徳の教科化に向けて、指導計画の精選。評価の在り方に関する研修。問題解決的な指導法の研賛。「どうとくノート」の活用、評価。新教科書に合わせて指導計画の見直し。
- ③ 通常学級と特別支援学級における在籍児童に対しての支援や関わり方の再確認。一人一人のニーズに合わせた支援、合理的な配慮。学期ごとに行われる校内研修会における情報共有。特別支援担当教員、学級担任、関係職員、保護者等の連携を継続して行う。
- ④ スマイルタイムは、行事等でなくなることが多く、十分に実施できなかった。学年当初に幼小交流年間計画を立て、継続して実施できるようにする。そのために、幼小ファイルに交流内容を綴じて取組についての内容や成果を残し、次年度の計画に生かす。
(PDCA サイクル)
本年度は、幼稚園の先生方との幼小研修や相互参観は、実施することができなかった。幼稚園の研究授業に参加する機会を設ける。

大阪市立滝川小学校 平成29年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p style="text-align: center;">【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○平成29年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。 （標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと） 平成28年度 109 → 平成29年度 109以上 → 107</p> <p>○平成29年度の小学校学力経年調査における正答率5.4割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より減少させる。 平成28年度 3年生、4年生、5年生、6年生・・・2.3% ↓ 平成29年度 3年生、4年生、5年生、6年生・・・2.3%以下 → 2%</p> <p>○平成29年度の小学校学力経年調査における正答率7.5割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より増加させる 平成28年度 3年生、4年生、5年生、6年生・・・78.5% ↓ 平成29年度 3年生、4年生、5年生、6年生・・・78.5%以上 → 75%</p> <p>○平成29年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。 平成28年度 76% → 平成29年度 77%以上 → 88%</p> <p>○平成29年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である立ち幅跳びの平均の記録を、前年度より0.5ポイント向上させる。 平成28年度 男子144.3ポイント→平成29年度144.8ポイント以上 →男子143.3</p> <p>平成28年度 女子136.9ポイント→平成29年度137.4ポイント以上 →女子134.3</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 互いの考えや思いを伝え合い、自分の考えを深めることができる学習（協働学習など）を積極的に取り入れ、主体的・対話的に学ぶ児童の育成に取り組む。</p> <p>指標 ・学校アンケート「感じたことや考えたことをまとめたり発表したりしあう場面がある。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする→</p>	A

<p>肯定的に回答する児童のアンケート結果は、92%（前回91）平均91.5%</p> <p>・質問紙調査「㊸学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より1%増加させる。</p> <p>平成28年度 76% → 平成29年度 77%以上 → 88%</p>	
<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>自然の中で活動する校外活動を充実させる。</p> <p>指標 ・自然体験教室、林間学習を実施するとともに、修学旅行、遠足において自然とふれあう活動を取り入れる。</p>	A
<p>取組内容③【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>I C Tを効果的に活用した学びの教育実践に取り組む。</p> <p>指標 ・学校アンケート「I C Tを活用し調べたり考えを伝えたりすることで、学習の内容が理解できた。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。→肯定的に回答するアンケート結果は、91%（前回92）平均91.5%</p>	A
<p>取組内容④【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>I C Tを効果的に活用した授業づくりや理科授業力向上に取り組む。</p> <p>指標 ・I C T活用や理科の研修会を計画的に実施するとともに、教員の指導力向上のための研究授業を年間11回以上行う。</p>	A
<p>取組内容⑤【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>体育科の授業において、全学年で走・跳の運動（跳び遊び・幅跳び・高跳びなど）を年間計画に組み入れ実施する。</p> <p>指標 ・体力テストの立ち幅跳びで、1月の記録が5月の記録を上回るようにする。</p>	A
<p>取組内容⑥【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>バランスのよい食事をするのが、健康の保持増進につながることをわかるようにする。</p> <p>指標 ・学校アンケート「バランスの良い食事をするように心がけている。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。</p> <p>→肯定的に回答する児童のアンケート結果は、91%（前回92）平均91.5%</p>	A
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 主体的対話的に学ぶ児童の育成</p> <p>学習課題の設定や学習の展開を工夫し、自分の思いや考えを伝え合う場を意図的に設け、主体的対話的な学びとなる授業づくりを行った。また、児童が対話や話し合いを通して、互いの考えを比較し共通点や相違点から自分の考えを深めていくことができる指導を積極的に行った。その結果、学校アンケートや質問紙調査で肯定的に回答した児童の割合は多く、発表や話し合う活動を通して自分の考えを深めることができる児童の育成に一定の成果が見られた。</p> <p>しかし、伝えるだけで伝え合うことが苦手な児童もおり、「話し合いの視点に沿った学び」が深まるまでに十分至らない。</p> <p>② 校外活動の充実</p> <p>自然体験教室、林間学習を実施するとともに、修学旅行、全校遠足「ふれあいオリエンテーリング」において自然とふれあう活動を取り入れ実施できた。</p>	

③ ICTを活用した学びの教育実践

日々の学習や活動において、ねらいに合わせて効果的な場面での積極的なICTの活用を図ってきた。指導者による資料の提示・配布、児童の調べ学習やアプリを活用した学習のまとめや発信など、ICTを学習ツールとして活用し、多様な「ICTを活用した学び」を実践した。その結果、学校アンケートでも肯定的に回答した割合は9割を超え、児童はICTを活用した学びに意欲的に取り組んだと共に、「ICTを活用した学び」が学習内容の理解につなげることができた。

④ ICTを活用した授業づくりや理科授業力向上

ICTを活用した授業づくりでは、年11回以上の研究授業を行い、授業実践や指導案検討会、討議会で授業づくりについて研究を深めてきた。また、プログラミング研修会など必要に応じて研修会を実施することで、活用の多様性を図る授業づくりについても研究を深めた。このような研究・研修により、指導力の向上が図られた。

理科授業力向上では、理科学習の基本的な指導についての研修会や指導実践の参観を実施したことで、日々の理科授業に活かすことができた。また、指導案検討会に参加することで学習のねらいや指導のポイントが明確になり、授業力向上につながった。

⑤ 立ち幅跳び記録向上

各学年、年間計画に走・跳の運動（遊び）の学習を位置づけ、跳躍力の向上を意識した運動（遊び）を多く取り入れた。またガッツ週間でも、ラダーやフラフープを使用し体全体を使った運動（遊び）を取り入れ実施した。その結果、概ね5月より1月の記録結果が上回った。

⑥ バランスのよい食事

栄養教諭による栄養指導、毎日の一口メモの活用や給食委員会の発表、給食週間での呼びかけにより、児童の食に対する意識は高まった。また、学校アンケートで肯定的に回答した児童は9割を超え、バランスの良い食事について理解し心がけている児童が増えた。

今後の改善点

- ① 主体的対話的な深い学びを迫及する指導者の手立てについて研究を深める必要がある。
- ② 継続指導
- ③ 児童が興味を持ち意欲的に取り組む、多様な「ICTを活用した学び」の継続指導
- ④ 実践内容はタブレット端末内や校務支援パソコンで共有し、モデル校3年目としてこれまでの実践の積み重ねが活かされた授業づくりを行う。
- ⑤ 更なる記録向上をはかるため、発達段階に応じた準備運動の工夫を体育部で提案する。
記録測定の適当な日時設定やより正確な測定方法について考慮する。
- ⑥ バランスの良い食事について、日常の生活でも実践できるような取り組みを検討する。